

LMCcorsa

60  **H.YOSHIMOTO**
 **R.MIYATA**

SUPER GT 2019 Race Report Rd.1 Okayama GT

4月14日 | 天候: 雨 | コース:岡山国際サーキット | 路面:ウエット(路温:14度)

Final Day Summary

開幕戦の決勝レースは12番手スタートから度重なるセーフティカーや中断で荒れた展開になるが7位まで浮上してポイントを獲得

Final Day

019 AUTOBACS SUPER GT の開幕戦

「OKAYAMA GT 300km RACE」の決勝レースが4月14日(日)に岡山国際サーキットで実施された。

前日の13日に行なわれた予選は宮田莉朋選手のアタックによって予選Q1を通過し、予選Q2を担当した吉本大樹選手は狙っていた1分25秒台に入る1分25秒974をマークするが、ライバル勢も躍進したために12番手からのスタートとなった。

決勝レース日となった14日は、事前の天気予報だと明け方から雨となっていた。しかし、8時過ぎにスタートしたFIA-F4の決勝レースは、ドライコンディションで開催される。それでも次第に雨雲が岡山国際サーキットに流れ込み、11時前から雨が降り出す。11時25分にスタートしたポルシェ・カレラ・カップ・ジャパンの決勝レースはウエット宣言となりセーフティカースタートとなるほどの雨量となった。

その後も雨量の増減はあるものの雨は降り続き、12時55分から20分間に亘って行なわれたウォームアップ走行もウエットコンディションでの走行となる。ウエットコンディションでの性能の高さは公式テストなどで実証されていて、天候を味方に付けられるかが勝負のカギとなると予想された。ウォームアップ走行は吉本選手と宮田選手の二人がステアリングを握り、合計で11周を走行。7番手のタイムを記録して決勝レースへ挑むこととなる。



300kmの決勝レースは予定通りの14時30分にスタートしたが、ウエットコンディションとなったためにパレードランが取りやめとなりセーフティカーが先導してスタート。SYNTIUM LMcorsa RC F GT3のステアリングを握った吉本選手は、レースがスタートした4周目に9番手に浮上するが、すぐにクラッシュが発生したためにセーフティカーが導入される。10周目にレー



スは再開され、この周にも1台をパスして8番手となり、さらに上位を目指す。だが、13周目に再び多重クラッシュが発生したため、赤旗が提示されてレースは中断する。クラッシュ車両の回収などで45分後に14周目からレースは再開するが、雨量が強くセーフティカーの先導によりレースは展開。19周目にリスタートが切られるが、23周目に再びGT500クラスの2台が接触したために

セーフティカーランとなる。30周目までセーフティカーの先導が続いたが、雨量が増えたことやコースコンディションの悪化により2回目のレース中断となる。

しばらくレース中断の状態が続いたがコンディションの回復が見込めないこともあり、レースは30周目で終了となった。SYNTIUM LMcorsa RC F GT3は8番手で中断となったが、先行していたマシンにペナルティが与えられたために7位に繰り上がり開幕戦を終えた。

なお、83週の決勝レースだったために30周だと規定周回数に達していないため、獲得できるシリーズポイントは半減となっている。

Team Comment



Director : 飯田 章

決勝レースは荒れたコンディションとなりましたが、ポジションを上げられたことは良かったと思っています。大きなクラッシュもあったので、中止の判断は仕方ないのでしょう。二人のドライバーは消化不良だったと思いますが、決勝レースまでの流れはここ数年ではベストだと感じています。この調子を維持したまま、次戦の富士スピードウェイラウンドでも活躍したいと考えています。



Driver : 吉本 大樹

決勝レースは天候を読むのが難しく、選択したタイヤが雨量や路面温度とマッチしていませんでした。後半のスティントで追い上げる予定だったので、途中でのレース中断には悔しさもあります。しかし、コースコンディションは凄く危険な状態で、セーフティカーランでもハイドロプレーニングによってマシンが浮いていました。来場してもらったお客さんが一番苦しいレースだったと思います。開幕戦はポイントこそ獲れましたが不完全燃焼だったので、次戦に気持ちを向けて挑んでいきます。



Driver : 宮田 莉朋

ウォームアップ走行ではレインタイヤの性能を確認できたので、このコンディションなら上位へ入れると思えました。しかし、決勝レースは相次ぐクラッシュやコンディションの悪化でほとんどレースができず、僕はマシンに乗れませんでした。昨シーズンに比べて色々な部分で性能アップを感じていただけに、レースができずにフラストレーションが溜まりました。それでも方向性やパフォーマンスは披露できているので、次戦以降も上位を目指して戦います。